

# 『つむぐ』

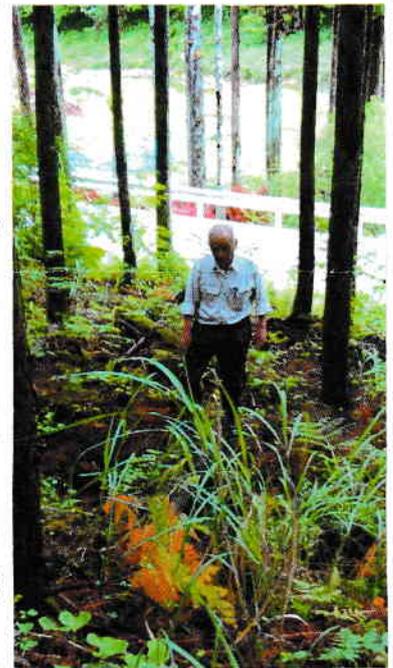


(2018年6月、越の原で)

## 穴水町の花 ササユリを守るため！

穴水町の「町の花」であるササユリが群生していた越の原地内。令和元年(2019年)にイノシシに荒らされ、ササユリは壊滅状態に陥りました。当時、「越の原ササユリ保存会」の会長であった田小路勝治さんは、ボランティアを募り、イノシシ対策の檻や柵の設置や下草刈り、球根の植之付けなど、群生地への再生に向けて取り組みを進めてきました。さらに、劣化した看板の取り換えや新たな球根の植之付けなどの準備を進めていたのです。今年3月、日急逝されました。「保存会」は様々な事情で、事実上の解散状態です。そのため、群生地への再生、保存活動は窮地に陥っています。

現在は、数年にわたって、田小路さんからの相談に乗って頂く「あした塾」が、今後の対応について検討しています。町内外の皆さんの物心両面にわたるご協力をお願ひしければなりません。



(イノシシに荒らされたササユリ群生地を語る田小路さん(2019年))

穴水町議選の投票率は20日(日)です。町民は責任のある選択をおこなってください。

## ムジコロール 声楽アンサンブル



「つむぐ」第55号でご告知いたしました。再度、参加を呼びかけたいと思います。ぜひ、お出かけください。

ただ、「越の原ササユリ保存会」としての活動は困難なため、新たな活動の形を考える必要がございます。

「穴水ササユリ会」(仮称)として考えられています。協力をご希望と思われる方は「あした塾」までご連絡してください。(連絡先はホームページ)当面、看板のつけ替え...5月中旬と6月18日(日)に予定されている「日本ササユリ会」との交流会の活動があります。(詳細は後日お知らせします。)

期日: 令和5年5月5日(金・祝)  
14:00~15:30  
会場: のとふしあひ文化センター・ホール  
入場料: 全席自由で1,000円  
中学生以下は無料です。  
連絡先は穴水町梶 勝井寛 090-3225-2224

# 見巻水鏡

しんぶつしゅうごう

# 神仏習合の名残り 滝又神社 (穴水町権)

春祭り、が、盛りだくさん折りのすが、穴水町には、この記事のようは文化もあるのです。

しんぶつしゅうごう  
神仏習合とは、日本に元来ある水神様の信仰である神道と、外国からやってきた仏教の信仰がひとつになった宗教の考え方で奈良時代に始まったものです。

江戸時代後半、神仏分離思想が強まり明治維新後、神仏判然令が出され、神仏分離となりました。それによって廃仏毀釈運動が起こり、神社の中にある寺院や仏像が破壊され、多くの貴重な文化が失われることになりました。

その難を逃れ、観音像が穴水町権、滝又集落の滝又神社にあります。

平成元年(1991)に発行された「穴水の集落誌」に滝又神社の記述があります。そこには「(滝又神社には)権神社(白山神社)の本持仏十一面観音が安置され、毎年4月、9月の11日に中居南の真言宗月光院任職の祈禱があり、神仏習合の名残りである白山神社の祭礼が行われている(1975年調査)」と記述しています。



(穴水町権区の滝又集落にある神社)

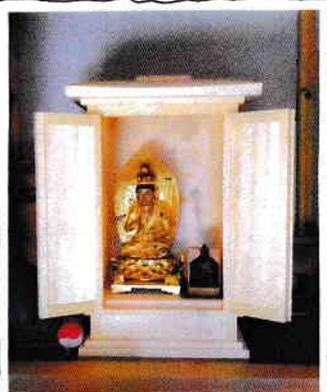


滝又神社を囲む木々は四季折々、いろいろな顔を見せてくれます。写真は紅葉の時期です。一度訪れてみてください。

集落の住人である幸崎久一氏(故人)が書き残した文書には、「この地に鎌倉時代の作である掛仏の鎮座。かつて権集落の白山神社のゴ神体だった木造十一面観音像を安置する『お宮』と呼ばれる観音堂があり、小さい五戸(現在は三戸)の集落の鎮守と持っている。」と書かれています。

なぜ、この観音像他が滝又集落に安置されることになったのか、残念なことに誰も知りません。集落では、長代、長代先人から受け継いだ「祭り」を守り続けています。

知っている人がいる間に 所の文化・文化財を守るために映像や記述で残しておかないと...



鑄鉄製懸仏(写真右)は鎌倉期の中居鑄物師による製品と推定されています。本持仏木像十一面観音像(写真左)は室町期とも伝えられています。金箔が塗られており、今後検討があります。(集落誌より)

(お願ひ) この記事と同じような「祭り」をしている集落等がありましたら教えてください。